

安達二十三 ニューギニアで孤立した軍を率い、敗戦後は深く降伏して部下を救った後に自決、敵からも賞賛された。

あだちはたぞう

帝国議会始・1890 = 石川県で、陸軍教官安達松太郎の四男に生まれる。

2人の兄・叔父・2人の従兄弟が少将以上になって行くエリート軍人一家であったが、13人兄弟という大家族で、他の男子同様、生まれ年をそのまま名とされるとともに、父の収入でも一家養うには不足し、

日清戦争始・1894 = 4歳 :

Bushidou・1899 = **9歳** :

教科書疑獄・1902 = 12歳 : 小学校卒業とともに、授業料不要な陸軍幼年学校に入り、

日露戦争終・1905 = 15歳 :

陸軍士官学校に進んで、

アライ 創刊・1908 = **18歳** :

韓国併合・1910 = 20歳 : 卒業(第22期)とともに、少尉となり、誉れ高い近衛歩兵第一連隊付となる。以後、順調に出世し、

明治天皇没・1912 = 22歳 : 中尉、

ロシア革命・1917 = **27歳** :

本格政党内閣1918 = 28歳 : 大尉に昇任、

原敬首相暗殺1921 = 31歳 :

水平社結成・1922 = 32歳 : 陸軍大学校(第34期)を卒業し、

関東大震災・1923 = 33歳 : 参謀本部付となる。

絵に描いたようなエリート・コースを歩むも、青年時代から禅宗に帰依し、キリスト教にも造詣深く、奢ることなく、部下将兵に溶け込んで、軍務に奨励。酒・煙草もたしなまず、妻以外の女性にも惹かれず、

円本時代始・1926 = **36歳** :

満州事変・1931 = 41歳 : **満州事変**、

五一五事件・1932 = 42歳 : ヨーロッパ出張。以後、外地勤務が続くようになって、部下・同僚相手に酒を飲むようになり、

この間、家族は東京にいたが、長女が虚弱で寝たきりだったため、その看病に妻がつききり、

芥川直木賞始1935 = **45歳** :

日中戦争始・1937 = 47歳 : **第二次上海事変**、

第二次大戦始1939 = 49歳 : **蒙疆作戦**、

日米開戦・1941 = 51歳 : **日米開戦時には、北支方面軍参謀長だったが、**

・・・1942 = 52歳 : *今村均大将麾下の第八方面軍に編成された第十八軍の司令官に任命される。当日、疲れで妻が死去。参謀本部報告兼ねて、死顔を一瞬見た、死期近い娘を見舞いに病院に寄っただけで、ニューギニアに向かうも、既に制空・制海権を連合軍に奪われ、師団・旅団も分断されていたため、兵力温存の方針を固め、
年金+総武装 1944 = **54歳** : *第十八軍が阿南惟幾大将を司令官として設置された西部ニューギニアを主管とする第二方面軍に転属となり、米軍が上陸したアイタベを急襲するも失敗して孤立、以後、持久体勢を指示、サゴヤシからの澱粉採取を考案、病人運搬や農園開拓などに工夫をこらして持ちこたえ、

敗戦・1945 = 55歳 : *ついに玉砕を覚悟したが、直後に終戦の詔勅がもたらされると、部下の命を救うべく、第十八軍率いてオーストラリア陸軍に降伏、戦犯となり、

新憲法公布・1946 = 56歳 : **部下の将兵の大半が復員して以降も、ムシユ島で服役を続け、日本軍の名譽を守り結果責任を受け入れ、**
新憲法施行・1947 = 57歳 : *終身刑を宣告された後、拘留続く部下8人の判決を待ち、全員の釈放が言い渡されると、弁護団に礼を述べて、自決した。その立派な最期に、葬儀には今村大将らの参列が許され、自決の習慣のないオーストラリア軍司令部からも、特別の挨拶があった。